

CNニュース(新生児集中ケア)

新生児の「痛みのケア」の紹介



NICU・GCUでは、新生児ケアの中で、「痛みのケア」というケアがあり、新生児にとって、なくてはならないケアのひとつです。今回は、新生児の「痛みのケア」について紹介します。

なぜ、「痛みのケア」が必要なの？

NICU・GCUに入院している新生児は、痛みを伴う処置や検査を頻回に受けています。成人では痛みを伴う処置の際、説明を受けて心構えを持つことができますが、新生児はそれができません。

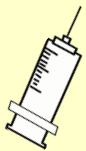
また、新生児は痛みを感じても大人のように言葉で表現することも、自分で対処することもできません。他者が理解する努力をしないと、新生児の「痛み」は、「ない」ことになってしまいます。

そのため、**新生児が経験する痛みを最小にし、かつ、新生児が発している痛みの表現を見逃さず適切に対処することが求められています。**



新生児にも「痛み」は分かるの？

在胎17週頃までに、全身の表面感覚器官は完成し、
在胎25週頃までに、痛みの経路が完成します



赤ちゃんだし
あまり痛みが
分からないかな？



えーっ！
痛みわかるよー！
すごく痛いのにな...

新生児の「痛み」の特徴は？

「痛み」の制御機能が未発達であり、受け取った刺激をそのまま脳に伝えてしまうため、「痛み」をより強く・長く感じてしまいます。さらに早産児になると、より痛みを感じやすくいつまでも続くため身体への負担が大きくなります。



「痛み」が及ぼす長期的影響は？

- ・「痛み」の感受性が増加し、「痛み」を感じやすくなる。
- ・「痛み」の伴う処置の回数の多さは、脳容積減少と関連する。
- ・新生児期に痛み関連のストレスを多く受けると、7歳での内在性問題行動（不安や抑うつ）が多い。

などの影響があると言われています。



では、「痛みのケア」の実際を紹介します！

○「痛みのケア」にはこのような方法があります。



- 自己鎮静を促すポジショニング
(自分の手を口元にもっていく)
- ホールディング (両手で優しく包み込む)
- おしゃぶり
- 抱っこ



○採血時の「痛みのケア」

1. 採血1分前



おしゃぶりと
ホールディングで
落ち着かせます。

2. 採血時



おしゃぶりとホールディ
ングは継続し、疼痛時の
表情やバイタルサインの
変動を観察します。

3. 採血後



おしゃぶりとホールディ
ングを児が落ち着くまで
20秒以上継続します。



その他
抱っこや「がんばったね」
など、優しく声かけしなが
らなだめます。

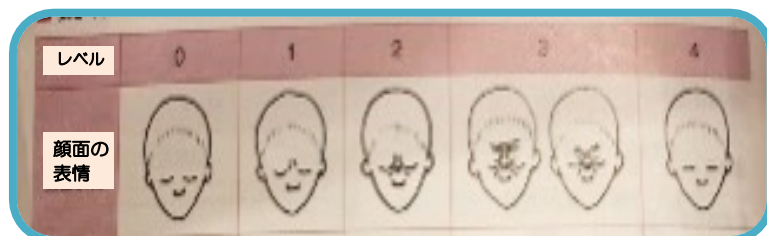
処置後の
なだめが
とっても大切
なんだよ ❤️



○表情の観察 (FSPAPI)

表情の観察は、FSPAPI
(新生児用フェイススケール) で
痛みのレベルを評価し、
記録しています。

FSPAPI (新生児用フェイススケール)



額や眉間のしわで痛みのレベルを評価します。



いかがでしたか。
新生児は毎日苦痛を伴うケアや処置がたくさんあります。
できる限り痛みや苦痛を最小にし、治療や処置に伴う侵襲を
小さくするように心掛けています。